

2019 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071000428		
法人名	社会福祉法人 桜花会		
事業所名	ライフケア大手門	ユニット名	
所在地	福岡県福岡市中央区大手門2-5-15		
自己評価作成日	2019年10月15日	評価結果市町村受理日	2019年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2019年11月1日	評価確定日	2019年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の事業所は福岡市の中心部に位置し、交通アクセスが大変良いところです。複合施設の1ユニット構成で、静かでのんびりとした居住空間でありながら、他事業所との合同の催しもあり、賑やかな時間を過ごすことも出来ます。ホーム内では、各入居者様の〇〇したいという意思を尊重し、その方の生活をその人らしく、また、出来ることは自分で行えるようアプローチしながら敬意をもって支援しています。ご家族とのコミュニケーションも大切にして、ご本人に代わってご意向を尋ねたり、一つのチームとして協力体制を築いています。各スタッフは、知識や技術、モチベーションアップの為、外部研修の参加を年間3回以上とし、共に成長し合える関係づくりを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“ライフケア大手門”は2020年に開設20周年を迎える。複合施設の交流も多く、地域のボランティアの方々や保育園児の訪問もあり、笑顔溢れるひと時を過ごされている。複合施設以外に系列の医療法人との連携もあり、入居者の心身状況に応じた適切な住まいの検討も行われている。24時間体制の医療連携も受けられ、早期対応に繋がることができている。天神のデパートや居酒屋、季節の花見等に外出する機会も作られ、入居者の方々の楽しみになっている。日々の生活では、入居者の方々の生活歴などを丁寧に把握し、「できること」「できそうなこと」を引き出されている。食事の下ごしらえや味見、配膳、下膳、食器洗い、盛りつけ等もして下さり、入居者の「自立」を目指し、「過介助」とならない生活を目指されている。家族の方との団欒も大切にされており、行事などのお誘いを続けている。一部のスタッフはキャラバンメイトの研修を受講しており、今後、地域の方々に向け、認知症への理解や支援方法等を発信していく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度がスタートする前に、グループホーム独自の理念をスタッフからの意見をもとに作り上げた。スタッフルームに掲示し、カンファレンス等で思いを共有しながら、常に実践に繋げるよう意識している。	前回の外部評価以降、事業所の理念を職員全員で考えることができた。理念には「入居者様の背景を尊重し」等も盛り込まれ、得意な料理や歌を披露して頂く機会を作られたり、生活歴等に応じて、馴染みの場所等の訪問を楽しまれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域の商店街にて買い物をしている。また、公民館行事等へ参加したり、地元保育園との交流、カラオケ指導や傾聴ボランティアの受け入れ等行っている。	入居者と「地域カフェ」や「子ども食堂」等に参加する事ができた。箕子校区運動会に参加し、声援を送られたり、地域ふれあいサロンで地域交流を続けている。施設の1階でボランティア(フルート演奏等)の催しに参加したり、保育園児やバプテスト協会の訪問時に、お遊戯や童謡等を楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症ケアの勉強会を行っている。また、一部のスタッフはキャラバンメイトの研修を受講しており、今後、地域の人々に向け、認知症への理解や支援方法等、発信していく予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退職者の報告や事故の報告、認知症ケアの実際(入浴拒否者への対応)等を報告。意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	会議の前に議題等をお知らせしている。会議内容の検討も行き、救命講習の出席講座を組み込む事ができた。外部評価結果も報告し、「認知症ケアで悩んでいる方にとっての相談窓口のような役割を担ってもらえれば有難い」等のご意見を頂いた。	今後は更に訪問リハビリの方に参加してもらい、全体体操等の実践を行ったり、風水害対策の検討の機会も増やす予定である。議題に応じて商店街の方等を招待し、地域の情報交換などに活かしていければと考えている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に職員の方が参加されホームの状況を報告している。消防避難訓練にもご参加頂けた。	必要な書類は課長が市に持参したり、市からの依頼で認定調査を受託している。ふれあい相談員の派遣もあり、情報交換を行っている。今後も市の職員に運営推進会議や消防訓練に参加して頂き、ホームの取り組みや地域情報の共有を続けていく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修を行い、スピーチロックを含め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束を禁止している。不穏になられる時は「不安?」「ケアや声かけの仕方?」等を原因分析し、ご本人の思いに寄り添うケアを続けている。エレベーターは構造上、暗証番号を押して開けるシステムで、散歩等の希望がある場合は職員が付き添い、開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、内部研修等で学ぶ機会を持っている。また、アンケートを実施し、事業所内で見落とさないよう注意を払っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で学ぶ機会を設けている。また、必要に応じ、関係者と話し合い支援している。	2020年1月の運営推進会議で、地域包括の方から制度の説明をして頂く予定である。ホーム内に制度に関するパンフレットを準備し、契約時に説明しており、入居者個々の制度の必要性を確認している。後見人(弁護士等)との情報交換も続けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約等の問題を含め、出来るだけ相談の機会を設け、説明を行い、理解と納得を得られるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会において意見を伺い、それを反映させるよう努めている。また、相談員の存在を掲示し、外部へ表せる機会についても伝えている。	理念の中に「私たちは入居者様とご家族が、毎日を安心して生活出来るよう介護を通して支援します」とあり、家族に参加して頂ける行事を企画し、お誘いしている。敬老会と忘年会の後に家族会を行い、情報交換が行われている。家族が生け花を教えて下さる方もおられる。	家族の方との信頼関係を深めてこれ、「ここが実家」と言って下さる家族もおられる。今後も更に、家族と一緒に料理をしたり、昼食を一緒に食べて頂く機会を増やすなど、家族との団欒の機会を増やしていきたいと考えている。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の施設長面談や、役職者との面談を随時設けることにより、職員の意見、提案を聞き出している。カンファレンスにおいても個々の発言を引き出している。	職員の意見により、ホーム独自の理念を作られた。「私たちスタッフは、互いに声を掛け合い、協力体制をとりながら、共に成長し合える関係づくりに努めていきます」という表現もあり、法人全体でケアの質の向上に努めている。施設長や課長、心理カウンセラーとの面談を受ける事もできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、その後に面談を行う等、各自が向上心を持って働けるよう努めている。時間外で業務につかなくて良いよう、定時退社を心掛けている。年1回の昇給あり。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集、採用にあたっては制限は設けていない。職員については希望休を聞いたり、資格取得に向けての環境整備を行う等配慮している。	資格の有無を問わず、笑顔や話し方等を大切に採用している。入職時は施設長がオリエンテーションを行い、社会人としてのマナー等も学ばれている。職員は年3回以上の外部研修に参加したり、資格取得の意欲も高く、やりたい仕事の希望を伺い、必要に応じて異動も行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権については内部研修に組み入れ、教育の機会を確保している。カンファレンスにおいても人権尊重の意識を伝え、啓発している。	施設長は「入居者の1日1日を大切に」「高齢者の生き方から学ぶ」「言葉遣い」「職員個々に成長して欲しい」等を職員に伝えている。日々のケアでは課長が中心になり、「入居者個々の行動分析の重要性」や「ご本人の言葉も記録に残す」事の大切さ等を伝えている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握しながら、研修を受ける機会を確保している。費用は基本的に施設負担としており、勤務扱いで参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、勉強会に参加したり、他施設見学等も積極的に行っている。行事の際にボランティアとしてお互いに参加し合う等、他施設との交流も持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階においては特に留意し、ゆったりとした雰囲気、不安や要望等話してもらい、信頼関係を築けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係づくりにおいても同様に配慮し、状況を把握するよう努めケアプランに反映している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を行いながら多方面からのアプローチを行っている。状況に応じて他のサービス利用を勧めることもある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動等、入居者様の主体性を大切に出来るだけ役割を持って生活して頂いている。入居者様からアドバイスを頂く等、支え合える関係づくりを行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけご家族にも参加して頂けるような催しを企画し、協力して頂くようにしている。また、本人にとって大切な存在としてケアプランにも位置付けている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの店や馴染みの場所に行けるよう支援している。(昔の職場、飲み屋、デパート、寺、等)	女学校時代の友達や馴染みの美容師の方が来て下さり、法人内の施設で生活する知人との交流も続けている。馴染みの場所(屋台・以前の職場等)を訪問する機会も作り、笑顔溢れるひと時となっている。家族や親戚と一緒に、墓参りや馴染みのデパートに行かれた方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様のそれぞれの性格や特性を考え、円滑に入居者様同士が関わり合えるよう、レクリエーションを行ったり、会話の橋渡しを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の別事業所や他施設に入居されたケースもあり、面会に行く等しながら、出来るだけ関係が途絶えないようにしている。また、入居中の対応や情報を伝え、フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	して下さい、という表現は避け、日頃から行動については選択して決めて頂く等、意向を尋ねながらケアにあたっている。知り得た情報は記録に残し、共有しながら介護計画に反映するよう努めている。	担当職員が中心になり、生活歴や要望をセンター方式に記載し、職員間で共有している。レシポ本を見ながら「～が食べたい」等の願いが聞かれ、叶えるように努めている。家族から「訪問マッサージを検討したい」と要望あり、訪問リハビリ等の利用調整が行われた。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活や発言から、これまでの暮らしについての情報を得るようにしている。更に面会時等に家族と会話することで、情報を深め、個別ケアへ繋がるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないという先入観で決めつけずに、まず取り組める環境を整備することで、自立を目指し、過介助とならない生活を目指している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン立案時、本人、家族より意向を伺い、可能であれば原案を本人に見せながら作成している。また、カンファレンス等においてスタッフ全員で課題やケアのあり方について話し合い、介護計画に反映している。	ご本人、家族と話し合い、お好きな事(料理、歌編み物等)や「できそうなこと」を引き出している。散歩や買物、ふれあいサロン等への外出支援も盛り込まれ、訪問PTの指導でリハビリを行っている。3表(日課表)も活用し、入浴時の留意点等の個別援助計画も記入している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子やケアプランの実践については個別記録に残しアセスメントに活かしている。気づきやアイデアについては主観が入る為、申し送りノートを活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内での決められた生活というより、自宅での生活を支援するような意識をもち、〇〇したいと希望すれば実現出来るよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域カフェ、ふれあいサロン等の地域行事、清掃活動等を通して、地域との関わりを継続している。他、傾聴ボランティア、カラオケボランティア、訪問歯科、理美容等、定期的に利用している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿う形で医療を受けて頂いている。現在は全員が系列の病院がかかりつけ医であり、定期受診等、行っている。	体調変化等は系列病院に24時間相談でき、医師等からアドバイスを頂いている。緊急時は系列施設の特養の看護部長や訪問看護師に相談でき、受診時は家族に同席して頂き、医師からの説明を聞いて頂いている。心肺蘇生法やAEDの操作法等の技術を習得するように努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師や、協力病院の訪問看護師と連携しながら健康管理に努め、必要な受診は迅速に行えるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者との情報交換、相談を随時行い、出来るだけ早期退院出来るよう支援している。協力病院のスタッフとは年に数回、交流の機会がある。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期についての意向確認を行うとともに、重度化した場合にはカンファレンスを開催し、方針の共有を図っている。	入居時に、「24時間体制の往診がなく、最期は希望を伺いながら、病院(さくら病院)や特養に転院になる」事をご同意頂いている。医療行為が必要となった場合の“意思確認書”も作成している。「最期までここで」と願われる方もおられ、医療機関と連携し、家族も一緒に転院ぎりぎりまで誠心誠意のケアが行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応等はマニュアルを整備している。また、心肺蘇生法やAEDの操作法等、内外の研修を通して技術を習得するよう努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での訓練に加え、ホーム内においても年2回の訓練を、最も人員の少ない夜間を想定して行っている。入居者様にも訓練に参加して頂き、誘導訓練を行うとともに、消火器の使い方も実践している。	法人全体の訓練(2回)と運営推進会議の時にホーム単独の訓練(2回)を行い、入居者と家族、地域の方と夜間想定訓練をしている。厨房で食料を確保し、ホームで飲料水20リットル、食材2日分、蓄電(3時間半)、災害時対応ラジオ(水電池)等を準備している。	今後は風水害マニュアルを充実すると共に、マニュアルに則った訓練方法を検討する予定である。消防署員も毎年点検に来て下さるが、同階の屋上が避難場所であり、消防署参加の避難訓練の検討もしていきたいと考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段より敬語を使用し、入居者様の尊厳を守る対応を心掛けているが、定期的にことばマナー月間を設けて、注意喚起を行っている。	職員の入れ替わりもあり、法人全体で接遇等のレベルアップを行うと共に、施設長からの指導もあり、日々「馴れ合い」にならないように注意している。「待つ」の語尾が強くなる時もあり、業務の優先順位を考えて動くように意識したり、個人情報管理も行い、情報漏洩防止に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望を確認しながらケアにあたるとともに、日頃から気軽に意思を伝えてもらえるような関係を築くことにも努めている。自己決定が難しい方は、表情の変化等から汲み取るよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれのペースに合った生活ができるよう、タイムスケジュールや、活動への参加を無理強いしないよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は入居者様ができるよう支援している。入居後も化粧品や洋服を買いに出かけることがある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立立案の際は、入居者様に好みのものを尋ねて組み込んでいる。準備には下ごしらえや盛り付け等、4~5人の入居者様が仕事を分担して行う日もある。	朝と夕は施設の厨房で作り、ご飯はホームで炊いている。昼はホームで作り、入居者も下ごしらえ(野菜切りや塩もみ等)や配膳・下膳・食器洗い、盛り付け等をして下さる。職員も一緒に食事をされており、会話が弾まれている。故郷の郷土料理(辛子蓮根やだご汁等)も好評である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調、嚥下状態に合わせた形態、量で提供するようにしている。水分摂取量にも留意し、摂りにくい方には、紅茶ゼリーを提供したり、提供回数を増やしたり、好みのものを準備して対応することがある。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへ案内し、一人一人の力に応じたケアを行っている。口腔衛生管理体制加算をとっており、介護スタッフは訪問歯科より指導を受け、毎日のケアに活かしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要以上のパッドの使用は避け、こまめにトイレへ案内するとともに、パッドの種類や適正な対応について、常に見直しを行っている。	布の下着(ハット)を使用し、自立されている方が多い。日々のリハビリで立位が維持できるように努め、拭き残しがある方は、小さめのパッドを使用して頂いている。自立支援の視点を大切にされており、「全介助」から「一部介助」等に成果が見られる方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、水分強化を図ったり、食物繊維を摂ってもらう等、薬物のみには頼らない対応を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けはスタッフから行うことが多いが、望まれない場合は別の日に声を掛けている。曜日は決めていないが、時間帯については13時半から16時の間を基本として対応している。	季節に応じて菖蒲湯や柚子湯等も楽しんでいる。浴槽が少し深い事もあり、浴槽内に足台を置き、安全な入浴に努めると共に、ケアハウスの大きな浴室を利用する事もある。入浴拒否の方は原因分析し、ご本人の意向を丁寧に把握したケアを続けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向には配慮しつつも、本人の生活習慣や体調、状況に応じた休息、安眠がとれるよう環境整備を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的等を把握し、医療関係者と連携を図りながら服薬支援を行っている。薬剤が変更になる日はスタッフへ周知すると共に、ご様子を記録に残す等、変化に留意している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得意なことや出来ること、楽しむことを日々、生活の中に取り入れている。ホームの仕事を担当してもらうこともある。嗜好品については購入支援を行ったり、家族の持ち込みにより提供している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣の散歩、買物のみではなく、本人の希望に沿った外出、外食を企画し、支援している。家族の働いている飲食店での食事も実施した。花見等、季節を感じられる外出支援も行っている。	1階でコーヒーを飲まれたり、そのまま散歩に行かれることもある。近くの公園の桜や東長寺の花見、大濠公園や舞鶴公園にお連れしたり、外食(寿司、ステーキ、イタリアン等)や年1回の居酒屋(10月)での会食も楽しんでいる。天神ショッパーズやゆめタウン博多で衣料品を購入される方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	7割程度の方が個人の財布を所有している。買物へ出た際には、金銭の使い方は本人に任せることが多く、支払いは出来ないところを手伝っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を使用されている方に対しては操作支援を行うこともある。大切な家族へ定期的に手紙を書いたり、年賀状も出している。電話の取次ぎや郵便物の投函等のお手伝いも行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場として適したものとなるよう努めている。ひな人形等の季節の飾りものに加え、毎月の壁面飾りを入居者様と共に作成し、季節感を味わって頂くようにしている。	ホーム横の屋上に朝顔を植え、水やりをされている。リビングからの見晴らしも良く、適宜換気も行われる。ホールは広く、廊下の壁には行事の写真や習字、手作りの作品が飾られ、ソファーに座り、テレビや新聞を見ながらゆっくりと過ごされている。脱衣室にも飾り付けを行い、入浴時の楽しみを増やされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とラウンジが離れている為、余暇時間には好きな場所で自由に過ごして頂いている。気の合う方同士で談笑出来るベンチを配置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全入居者様が、使い慣れた家具等を持ち込んでいる。どの居室にもその人らしさが垣間見える。	居室のドアの一部が透明ガラスになっており、カーテン等を下げている。入居者と一緒に作られたぬいぐるみも飾り、ご自分で編まれたマフラーを巻かれている。毎朝、仏壇に職員が準備したお仏飯をお供えする方もおられ、入居者と一緒に関交や整理整頓をされている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札をつけ、トイレ、浴室等、わかるように表示している。居室内は動線の妨げにならないように家具を配置する等安全にも配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				